

令和6年度 第1回 経営協議会議事録

日 時：令和6年6月25日（火）13時30分～15時10分

場 所：本部棟5階大会議室 ※Web会議併用

出席者：湊総長（議長）

天野委員、安藤委員、伊佐委員、伊藤委員、岩井委員、上田委員、小幡委員、佐藤委員、關口委員、多田委員、出口委員、中西委員、平野（俊）委員、平野（信）委員、町田委員、村尾委員、森委員、山越委員

欠席者：門川委員、西脇委員、長谷川委員

オブザーバー：山口監事、西村監事

- 令和5年度第4回経営協議会及び令和6年5月書面審議の議事録（案）について、確認のうえ、原案どおり承認された。

【 議 事 】

1. 執行部の体制について

令和6年7月1日付けで就任予定の理事について説明があり、意見を聴取した。

2. 第4期中期目標・中期計画等に係る自己点検・評価報告書（令和5年度）（案）について

第4期中期目標・中期計画等に係る自己点検・評価報告書（令和5年度）（案）について説明があり、審議の結果、了承された。併せて、公表までに生じた修正等については総長及び大学評価委員会委員長に一任願いたい旨説明があり、審議の結果、了承された。

委員による主な意見は次のとおり（○：質問・意見 ●：説明・回答）

○：報告書の概要版が作成されたことは非常に良いと思う。そのうえで、以下の点について取り組むとさらに良くなると考え意見させていただく。

- ・概要版の1頁目はエグゼクティブサマリーとして評価のポイントを書くべきであり、報告書の構成ごとにもエグゼクティブサマリーを付けると良い。
- ・アウトプットとアウトカムを明確に区別できていないものがあると感じるため、それらを区別するほうが良い。
- ・評価によりメリハリがあると良い。
- ・課題に対するアクションプランの記載にばらつきがあるので改善すると良い。
- ・評価委員会において、各部局からの回答を蓄積するだけでなく調整を行う必要がある。

●：各部局の結果をもとに、評価委員会の評価を加味したうえでPDCAをどのように回すかということが重要であると思うので、部局の自主性を尊重しつつ、ご指摘の点を加味しながら次につながるものになるよう考えていきたい。

3. 令和5事業年度決算について

令和5事業年度の財務諸表について説明があり、審議の結果、了承された。また、「利益の処分に関する書類」に係る教育研究等積立金については、文部科学大臣の承認を受けることになるため、承認後の取扱いについては、前年度までと同様に役員会に一任とする旨説明があり、審議の結果、了承された。

委員による主な意見は次のとおり（○：質問・意見 ●：説明・回答）

○：決算の資料からどのような課題が浮き上がってくるのか説明いただきたい。例えば、受託共同研究の受入額は増加傾向ということであるが、この点を大学としてどのように評価されているのか。

●：部局の各教員が獲得するものに加えて、成長戦略本部やKUR A等の全学的な組織の支援をあわせて、受入額増加に向けて全学的な努力を始めている。個別の研究課題に関する共同研究は着実に進めていく。あわせて、今後増加することが見込まれる長期で社会課題を探究しながら共同研究を行うタイプのものについては、大学側から共同研究の相手方にプロポーザルをすることも必要であると考えている。

○：外部資金について、他大学との比較について説明があるとより理解が深まると思う。

●：他大学と比較して上位であり、今後は産学連携の質をどのように高めていくかという点が非常に重要であると考えている。

4. 令和7年度概算要求（運営費交付金）について

令和7年度概算要求（運営費交付金）の要求事項について説明があり、審議の結果、了承された。

委員による主な意見は次のとおり（○：質問・意見 ●：説明・回答）

○：概算要求の内容に金額と人数の記載があるが、人数と予算は概ね連動するものか。

●：要求する領域や組織の内容によって変わってくる。

○：成長戦略本部に関する概算要求について、来年度以降も同程度のレベルで要求していく考えであるか。

●：成長戦略本部において今後様々な人材が必要であり、来年度以降も継続して要求していくことを考えている。

【 報 告 】

1. 総長選考・監察会議からの報告について

令和6年3月18日（月）に開催された総長選考・監察会議において確認された総長の業務執行状況の確認の結果について報告があった。

2. 令和5年度資金管理実績報告について

令和5年度資金管理実績について報告があった。

委員による主な意見は次のとおり（○：質問・意見 ●：説明・回答）

○：今後のことを考慮すると、資金運用の体制が現在のままで良いかという点を検討する必要があり、CIOを置くかということは少なくとも検討すべきであると思う。併せて、リスクマネジメントの体制を同時に構築することが必要である。

●：大学としての資金運用に関する組織体制を作り運用方針やリスク管理体制を固めたうえで外部の人に入ってもらうほうが良いか等、執行部で協議したいと考えている。また、リスクマネジメントについては、資金運用が大学の本分である教育

研究に資するものとなるよう適切に行っていきたい。

- ：金融界出身の人材の資金管理の考え方と大学での考え方を調和することは難しいと思うので、早めに検討していくことが良いと思う。

3. 令和6年度監事監査計画について

令和6年度監事監査計画について報告があった。

4. 経営協議会学内委員について

令和6年7月1日付けで就任予定の経営協議会委員について報告があった。

5. その他

- ：事業報告や決算報告について、内容が多岐にわたり抽象的になるため、個別の取組みについて討議の時間を設けていただくと有難い。
- ：次回以降の会議で取組みを紹介させていただく。
- ：女性の割合が低いということはそれだけでマイナスとなることにもなりかねないので、留学生の受入等も含めてダイバーシティの推進は意識的に取り組んでいく必要があると思う。
- ：女性の割合について数値が上がってきているので、今後もしっかりと取り組んでいきたい。
- ：様々な改革を進めていくにあたり、京都（大学）らしさというものを感じることができると良いと思う。
- ：ご指摘のとおり京都大学らしさをどのように示すかということは非常に重要であると考えている。